



株式会社デンソーワズテックの澤田社長(右)と株式会社トイファクトリーの藤井社長(左)

イキイキ働き わくわく働く

2月20日、ワーク・ライフ・バランスや働き方の見直しを推進し、特に模範的な取り組みを行う企業と協定を結びました。今回協定を締結したのは、社員が気軽に自分の意見を言える職場づくりを行う株式会社デンソーワズテックと、家族に会社のことを知ってもらえるよう社内報を作る株式会社トイファクトリーの2社。

若い人たちが住みたい・働きたいと思える魅力ある可児市へ、事業者と協力して取り組んでいきます。

伝統文化を残したい

岐阜県伝統文化継承功績者として下恵土の安田紘治さんが顕彰されました。市指定の無形文化財である可児市宮太鼓保存会の会長として保存・維持に長年尽力し、その功績が称えられたものです。

安田さんは宮太鼓の魅力について「昔から神社の祭で奉納されるもので、素朴な祭と太鼓の音が一体となる瞬間が心地良い。好きで始めたもので受賞できたのは嬉しい」と喜びを語りました。



笑顔で受賞を報告する安田さん



講演会の様子

はじめてわかった主婦のこと

子育て健康プラザ・マーノで2月23日、輝ける私の応援講座を開催しました。家政アドバイザーや日本唯一の主夫芸人としても活躍する中村シュフさんが講師を務めました。

「主婦は日々の生活をデザインする権利を持つデザイナー。みんなが『シュフ』となって家事に取り組みれば家族全員が笑顔になる」と、家事や育児などについて独自の考え方やスタイルを紹介しました。

もっと上手になりたい!

2月23日に、小学生バスケットボールクリニックが帷子地区センターで行われました。講師は可児市と協定を結ぶ中部学院大学の女子バスケットボール部。スポーツ少年団のバスケ少年・少女57人がコツを覚えてもらったり、手本にして技を盗んだり汗を流しました。

「とにかく練習あるのみ! 高いリングに慣れるには近くからたくさんシュートしよう」など、中学入学を控えた未来のスター達にアツい指導が飛び交いました。



練習の様子

環境に優しいまちづくり

2月24日、広見地区センターで環境フェスタを開催しました。間伐材を利用したアルプホルンの演奏から始まり、環境宣言大声コンテストや小学生の環境学習ステージ発表などが行われ、子どもから大人まで多くの人が参加しました。

今年初開催したフードドライブでは自宅に余っている食料を回収し、集まった食品は可児市社会福祉協議会を通して、こども食堂などに寄付され活用されます。

また可児市は、平成30年7月の豪雨災害により被災した関市と下呂市に災害支援というかたちで職員8人とトラック1台を派遣。環境問題に取り組んだとして昨年12月に環境省から表彰を受けました。今後もさまざまな機関や団体と連携して、豊かな自然環境を守っていきます。



1年間可児川の自然について学んだ成果を発表する広見小の子どもたち



災害ごみを片付ける様子



AIアナウンサーの原稿を入力する山内さん

FMららがパワーアップ!

2月8日からFMららで人工知能技術を使った合成音声アナウンスシステム「AIアナウンサー」の本格運用が始まりました。県内のコミュニティFMラジオ局では初の試みで、毎週金曜日の正午に放送する天気情報番組をはじめ、災害時には緊急情報の発信を行います。

同局アナウンサーの山内聖恵さんは「仲間が増えてうれしい。緊急時に住民のみなさんへより迅速な情報発信を行う手助けとなる」と話しました。

輝け! 未来のピアニスト

第20回ショパン国際ピアノコンクールのアジア大会に出場した熊澤拓志君(帷子小5年)が2月19日、市長を訪問し、銅賞受賞の喜びを報告しました。

「曲の色のイメージを大切にしました。緊張したけれど、思ったとおりに演奏できた」と、大会では実力を十分に発揮できた様子。獲得した銅メダルを首から下げ「将来は世界的に有名なピアニストになりたい」と力強く意気込みを語りました。



熊澤君(左)と富田市長